

かづの微生物農法研究会便り

H19.4.1 Vol.4



雪解け水と萌え始めたバツケ(ふきのとう)。

稲の苗づくりが始まりました。

年度も改まり、いよいよ仕事も勉学もスタートという時期になりました。当地鹿角の農作業も、稲の苗づくりが始まっています。昔は「苗半作」といわれたほど、健全な苗づくりは稲作では重要な作業です。言ってみれば、稲の苗づくりは、人でいうところの赤子を育てるようなもの。育児をテキトウにすればどうなってしまうかは、よくニュースでやっていますが・・・稲も同じです。病気に強くなるように、また異常気象にも負けない世渡りの上手さを身につけるように、苗づくりは慎重かつきめ細かな温度調節と灌水を要します。最初は温かく、苗の生長とともに徐々に外気に慣らしていかなければなりません。過保護に育ててしまうと、田植えをしてから外気温の変化に対応できず、大きくなることができなくなってしまいます。稲の苗は、決して温室育ちというわけではなく、生産者の愛と鞭を発揮するハウス内で剛健に育ちます。

「微生物農法」って何のこと？

水田の土の中には沢山の種類、膨大な数の微生物が活動しています。私たち人間のお腹では善玉菌と悪玉菌のバランスが崩れると体調が悪くなりますが、イネにとってのお腹を水田土壌、とらえたのが微生物農法です。水田の土も微生物のバランスを整えてやるのがとても重要で、そのバランスが崩れるとイネが病気にかかりやすくなったり、生長が上手くいかなかったりします。有機肥料や堆肥で微生物バランスを良好に保つことで、健康で自ら美味しくなる



葉の色は濃過ぎないか？

淡過ぎないか？

葉の長さは適切か？



食べてお得なサービス実施中。

ポイントシールをためて送ると必ずもらえるプレゼント！



お買い上げいただいた商品についてくるシールを集めて専用台紙に貼って送ると、お米などをもらえるプレゼント！ お問い合わせは 0120-08-2028 まで

TOPICS

講談社の「日本一おいしい米の秘密」という本で、微生物農法米あきたこまち「花輪ばやし」が紹介されました。機会があれば見てみてください！！

生産地から

今年の2月は、雪国に雪の無いおかしな月でしたが、3月はまるで2月の分を取り戻すが如く、低温・降雪の多い月でした。ちょうど2月と3月がいつもと比べ逆になったような印象です。エルニーニョ現象の影響でしょうか。エルニーニョが収まったと思いきや、今度はラニーニャ現象が発生したとか。これからの季節、ラニーニャの影響といえば猛暑。雪不足からくる水不足で今度は猛暑となればたまりません。適度に春らしい春、適度に夏らしい夏が来てほしいものです。



4月下旬でも八幡平高原は雪の壁。7月まで雪が残る・・・はず。



川の源流、清流に恵まれた当地は、盆地ということもあって、よどみない清らかな水が豊富に流れ込む。その流れを辿るとあちこちに滝が。



当地でも大きな川には最近になってアユやサケが上ってくるようになったが、もともと当地はイワナやヤマメの宝庫。溪流釣りが好きな人には当地はたまらないスポットらしい。



こちらのホームページで鹿角地域のスキー場情報など様々な観光案内がご覧いただけます。

(社)十和田八幡平観光物産協会

<http://www.ink.or.jp/~kankou18/>

かつの三姫のブログ

<http://blog.livedoor.jp/kazuno2006/>

美味しいお米とりんごのご注文 / お問合せ先は・・・

〒018-5201 秋田県鹿角市花輪字赤川端7-3

有限会社 安保金太郎商店

フリーダイヤル：0120-08-2028

e-mail kintaro@umaikome.jp



当地の名産品、「北限の桃」の園地は、5月のゴールデンウィークが終わった頃、一面鮮やかなピンク色に染まる。ちょうどゴールデンウィークに当地の桜は見ごろとなるが、桜が散った後は桃の花が見ごろとなる。



野焼きに煙る春の鹿角地域。

ぜひ一度

かつの

鹿角へ遊びに

来てみて下さい!

有限会社 安保金太郎商店

かつの微生物農法研究会

事務局

文・写真：安保 大輔

この「微生物農法研究会便り」のバックナンバーや、毎月発送などのご希望がありましたらご一報下さい。感想もお待ちしています。